

総合的な学習の時間における NIE 実践

宮崎大学教育学部附属小学校

教諭 前田 貴宏

1 はじめに

本校では、総合的な学習の時間における探究課題を、以下のように設定している。

学 年	探究課題
第 3 学年	【地域の伝統や文化・ものづくりの魅力発見】 「わたしとささ・わたしと竹」 ～われらささの葉っ子～
第 4 学年	【環境保全のために私たちにできること】 「わたしとエコ」 ～広がれ！つながれ！まごころエコプロジェクト～
第 5 学年	【食を支える文化とその継承】 「わたしと食」 ～開店！日本一の和食店～
第 6 学年	【宮崎県の魅力と宮崎県の活性化のための取組】 「わたしと宮崎」 ～宮崎の魅力再発見！修学旅行をとおして、宮崎県のよさを見つめ直そう～

本実践の対象となる第 4 学年の探究課題は、「わたしとエコ」である。

本学習では、環境保全や持続可能な社会を実現するための取組が自分の生活と深くかかわっていることについて理解したり、環境保全や持続可能な社会を実現するための社会の在り方や生き方を考え、実生活において自分にできる取組を広げたりすることを主なねらいとしている。

2 本実践の主張

総合的な学習の時間は、探究的な見方・考え方を働かせながら、総合的・横断的な学習を行うことをとおして、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することをめざす。しかしながら、探究課題が事前に設定されている本校においては、子どもが受け身になっていることもある。子どもが学習の主体となるためには、子どもの問題意識を引き出し、探究課題に沿って自ら学習に向かうようになるためのしかけが必要である。

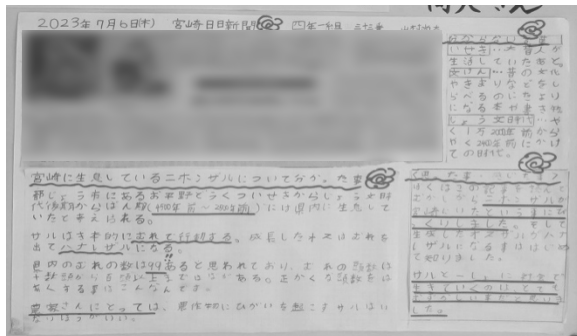
そこで本実践では、しかけの 1 つとして、新聞記事の活用を行う。「課題設定の場面」において、子どもの興味・関心に沿った新聞記事を活用することで、子どもの素朴な疑問や「やってみたい」という思いを引き出し、主体的に探究的な学習へ向かう姿につながるのではないかと考えた。また、そのような学習を繰り返していくことは、「情報消費者」から、「情報生産者」への転換を図るための素地を育むことができるのではないかと考えた。これらの仮説を基に検証する。

3 実践

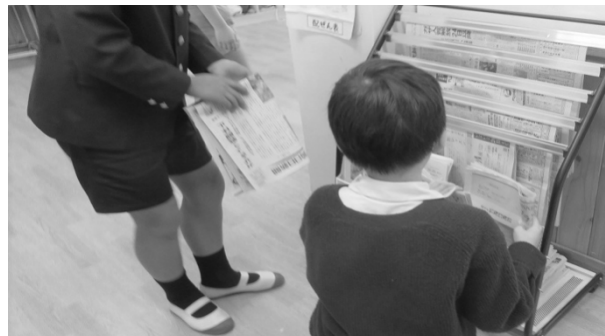
(1) 学習環境の設定

① N I E ノート

本学年の子どもは、週に1回、N I E ノートに、関心をもった新聞記事の内容を要約して見出しを付けたり、調べたことや感想をまとめたりする活動に取り組んだ。



【N I E ノートの例】



【興味のある新聞記事を探す様子】

② 環境整備



教室側面に N I E ノートを掲示

学級の子どもやその親族等が載った記事を掲示

第4学年の各教室に新聞ラックを設置

(2) N I E ノートを活用した授業の実際

以下の授業を行った時期は、宮崎県でG 7（宮崎農業大臣会合）が行われていた時期ということもあり、多くの子どもがG 7についての記事を選んでいった。そのなかで、「各国の農業大臣に対して、宮崎の高校生が無農薬・有機農業をアピールした」という内容の記事（以下、記事A）と、「G 7の会合の詳細（持続可能な農業生産向上）」についての記事（以下、記事B）を取り上げていた子どものN I E ノートを基に授業を行った【資料1】。

導入でG 7についての資料を提示し、「みなさんなら、宮崎の何を世界の人にアピールしますか。」と問うと、多くの子どもがマンゴー等の特産品をアピールすると答えた。

そこで記事Aを配付し、内容を確認するなかで、子どもは「有名な特産品ではなく無農薬や有機農業をアピールしたのはなぜだろう。」という疑問をもった。

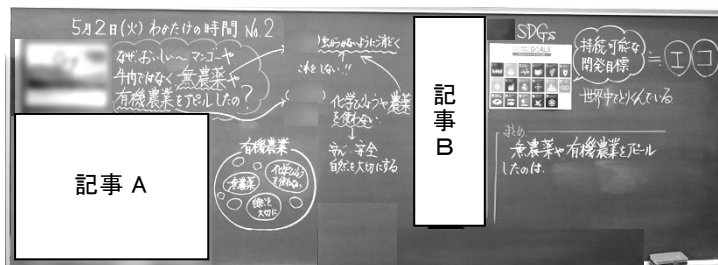


【資料1 実際の板書】

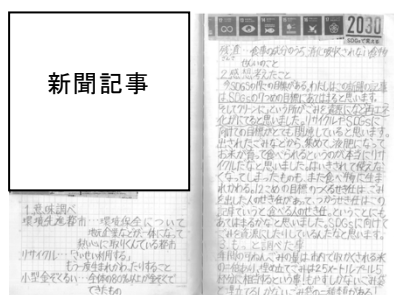
次時では、前時の疑問を基に、「無農薬」「有機農業」という言葉や、G 7 の目的について調べ始めた【資料 2】。そこで記事 B を配付し、内容を確認するなかで、持続可能という言葉に着目した子どもが、「SDGs だ。」とつぶやいた。その発言により「マークやロゴは見たことがあるけど、意味は分からないから、調べてみたい。」等、探究課題に関連する新たな疑問や「やってみたい」という思いをもつ姿が見られた。

第 3 時以降は、上記の疑問や思いを基に、SDGs の各目標の意味について調べたり、調べたことを発表したりする時間を設定した。

すると、その時期の子どもの NIE ノートから、SDGs の目標と関連付けながら記事を読んでいるような記述が見られ始めた。



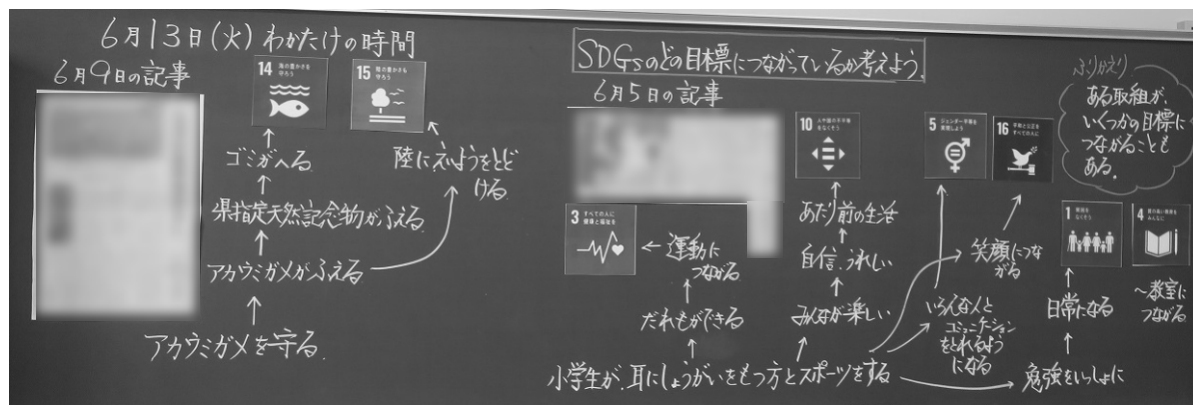
【資料 2 実際の板書】



「わたしはこの新聞記事は、SDGs の 7 つめの目標にあてはまると思います。(中略) 12 こめの目標のつくるせき任は、この記事でいうと食べる人のせき任ということにもあてはまるかなと思いました。」

【資料 3 子どもの NIE ノートより】

また、「1 つの取組が、複数の SDGs の目標を達成することにつながる」ということに気付くような記述も見られ始めた【資料 3】。そこで、その気付きを広げるために、【資料 4】のような授業を行った。



【資料 4 授業の実際】

この時間は、まず 1 つ目の記事を読み、「1 つの取組が、複数の SDGs の目標を達成することにつながる」ということを全体で確認した。その後、2 つ目の記事を提示し、どの目標につながるかを考えた。授業後の子どもの NIE ノートでは、取り上げた新聞記事の内容について、複数の SDGs の目標と関連付けて考える姿が見られ始めた。また、上級生が行っている委員会活動の取組について、SDGs と関連付けて考えるなど、身の回りの生活事象を SDGs の視点から捉えようとする姿も見られ始めた。

4 成果と課題

【成果】

- 子どもが興味・関心をもった新聞記事を授業で扱うことは、素朴な疑問や「やってみたい」という思いを子どもがもつために有効である。また、そのことが、子どもが主体的に探究的な学習へと向かうことへつながった。
- 子どものN I Eノートについては、自分で取り上げた新聞記事について、S D G sとの関連を考えたり、複数の目標と関連付けて考えたりするようになるなどの変容から、「情報生産者」としての素地が育まれたと考えられる。

【課題】

- 年間をとおして実践を行ってきたが、子どもが自ら新聞を手取る様子はほとんど見られなかった。そのような姿が見られるようになるためには、年度当初に教育課程や学習環境の整備の見直しをしたり、図書司書と連携したりするなど、学校全体で取り組んでいく必要がある。

参考文献

- 『課題設定場面における子どもの自己決定に関する事例研究』竹尾隆浩・松本伸示（2005）
『情報生産者になる』上野千鶴子（2018）